



GIFU PHYSICAL THERAPY ASSOCIATION NEWS



らいちよう

No. 154

2025.8.25 発行

(公社) 岐阜県理学療法士会 広報誌 <https://gifu-pt.jp/>



目次

会長就任のご挨拶	2~3
学術集会を終えて	4~5
学会評議員会より	6
感謝賞表彰式	7

会員の声	8~9
活動報告	10~13
教育部主催研修会	14
役員名簿	15



会長就任のご挨拶

岐阜県理学療法士会
会 長 河合 克尚



日頃は、岐阜県理学療法士会の活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。令和7年6月の総会で第11代会長に就任しました、河合克尚です。重責に身が引き締まる思いとともに、微力ながら誠心誠意努めてまいりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

まずは、長年にわたり本会の発展に尽力されてこられた、前会長の村雲憲先生に心より敬意と感謝を申し上げます。村雲先生が会長に就任された1期目の2021年は、コロナ禍で社会環境の急激な変化の中、難しい舵取りを担っていただきました。また、2期目はアフターコロナの新たな時代の中、本会は村雲先生のリーダーシップで様々な課題にも柔軟に対応しながら前進することができました。村雲先生の想いをしっかり受け継いで、県民の皆様のため、会員の皆様のために努めてまいります。

さて、近年、私たち理学療法士を取り巻く環境は急速に変化しており、私たちに寄せられる期待は大きくなっていると感じています。それを表すように、本会の事業は年々増加しており、予算規模（公益目的事業、その他事業）では、公益法人化以降、この12年間で5倍近くまで大きくなっています。これは、会員の皆様が日々の臨床業務や地域での活動に尽力されていることが、私たちに対する信頼と期待に繋がっているからだと考えております。今後は、本会への期待と要望もますます多様化することが考えられ、それらに迅速かつ柔軟に対応していく必要があります。本年度、岐阜県では「地域リハビリテーション支援体制整備推進事業」の予算化がされ、今後、地域リハビリテーション活動支援事業が進んでいく予定です。また、10月には「ねんりんピック岐阜2025」の開催（10月18日～21日）が予定されており、会員の皆様にはそれぞれの立場で大会の運営やサポートに貢献していただくことを期待いたします。本会としましても、県民の皆様が住み慣れた地域でいきいきとした生活を送っていただけるよう、県や市町村、関係団体と連携して、岐阜県の医療、保健、社会福祉の発展に貢献していきたいと思います。そのために、岐阜県理学療法士会の基本方針として、質の高い理学療法を提供できる人材育成、会員同士の交流と施設間の連携強化、理学療法士が地域で活躍できる環境を整えるための政策活動、この3点が特に重要だと考えます。本会の事業を進めるためには、若手からベテランの皆様まで、全世代の方々のご協力が必要です。より多くの方に「参加したい」「参加してもいい」と思ってもらえるような法人運営に努めてまいります。

一方で、本会として強く意識している課題の一つが、「休退会者の増加」です。これは本会に限った現象ではありませんが、会の存在意義や活動内容が今一度問われているという、重要なメッセージであると受け止めております。会員の皆様が日本理学療法士協会や岐阜県理学療法士会に所属することへの価値や必要性を感じられなくなってしまうとすれば、それは運営に携わる私たちの責任でもあります。本会の活動が現場の声と乖離していたり、情報発信が不十分であったり、事業への参加のハードルが高かったりするようでは、自然と距離が生まれてしまうのも当然のことです。普段感じていることや、もっとこうしてほしいという意見や要望をぜひお聞かせください。若手から中堅、そして管理者の皆様まで、全世代の会員の声に耳を傾け、本会としてできる支援を創出していきたいと考えております。

また、重要な課題としてもう一つ、本会の災害対策についても検討を進めていかなければならないと考えております。南海トラフ地震等に備えて、災害対策は待ったなしの課題であり、災害発生時の会員の安否確認、事務局業務を含めた各事業の対応、関係団体との連携など、いつ起こるかわからない災害に対して緊張感とスピード感をもって取り組みたいと考えております。

最後になりますが、これからも皆様とともに、理学療法士の可能性、そして未来を考えていきたいと思っております。今後とも、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



村雲前会長を囲んで(2025年6月15日)

第35回岐阜県理学療法学会 学術集会を終えて



2025年6月15日(日)OKBふれあい会館にて、第35回岐阜県理学療法学会学術集会を開催いたしました。前日まで雨が降り続き、当日も天気予報では雨でしたが、なんと大逆転の晴れとなり、無事開催することができました。演題数は29演題、参加者数は345名と過去最多を記録し、大盛況の中終了することができました。参加者の皆様、運営スタッフの皆様にはスムーズな学会運営にご協力頂き、本当にありがとうございました。特に運営スタッフの皆様には、私の拙いディレクションにより大変なご迷惑をおかけいたしました。当日を乗り切ることができたのは運営スタッフの皆様のおかげに他なりません。感謝してもしきれません。この場をお借りして、改めてお礼申し上げます。

今回の学会テーマは「COLLABORATION」と題しました。このテーマが決まったのは遡ること2023年10月。当時は大会長の小林先生とアシスタントディレクターの山藤先生と3人で、今回のプロジェクトの「軸」(絶対にぶれてはいけない信念)を決めるために集合しました。3人それぞれに今回の学会に対する思いや大事にしたいことを話すと、示し合わせたわけでもないのに、「つながりを作る」という言葉が出揃いました。このときから今回の学会のテーマは「つながりを作る＝COLLABORATION」と決まっていたんだと、振り返ります。

そのあとはこの「つながりを作る」という軸を実現するために、どんなプログラムにするべきなのか、どうしたら参加してもらえるのか、そのための広報戦略ややれるだけのことをこれでもかと盛り

込みました。その結果、1日の中でシンポジウム、招待講演、教育講演(2講演)が組み込まれる、いままでの県学会では考えられないボリュームのプログラムとなりました。またSNSでの広報にかなり変化を加え、他県士会とのCOLLABORATIONも行いました。肝心の演題発表に関しては、「抄録作成」「口頭演題」「ポスター発表」の事前資料を作成し、少しでも演題登録のハードルが低くなるように



第35回岐阜県理学療法学会学術集会

準備委員長 鳥澤幸太郎(山内ホスピタル)



取り組みました。こうして振り返ると、本当にやれることを詰め込んだ、わがままな学会運営だったと反省しています。それでも無事に終了することができたのは、立ち上げから関わってくださった運営チームの皆様のおかげです。このわがまを実現するために、岐阜支部からいまをときめく若手運営委員をスカウトし、平均年齢30代前半という“超”若手運営チームを立ち上げました。若いからこそそのパワー・フレッシュさを全面に押し出した運営も今大会の特徴だったと思っています。

COVID-19により、学会の在り方は徐々に変わってきました。しかし、学会に参加する意味、その根幹の部分は変わらないと自分は考えています。今回の学会参加が、職場以外の理学療法士とのつながり、理学療法士以外の方とのつながり、自分とは異なる考え方とのつながり、いろんな「ひと」「考え」「環境」と自分をCOLLABORATIONさせる、そんなきっかけとなる場になっていれば幸いです。

最後になりますが、この場をお借りして、今回の学会に携わってくださったすべての皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



学会 評議員会より

第35回岐阜県理学療法学会学術集会にて、
優秀演題の表彰式を執り行いました



令和7年6月15日開催の第35回岐阜県理学療法学会学術集会（OKBふれあい会館）の閉会式にて、最優秀賞1名、奨励賞2名の表彰式が執り行われました。

選出方法は、抄録の査読結果より表彰対象者を5名選出し、当日の開会式直後のセレクトセッションの発表内容にて、最優秀賞1名、奨励賞2名が選出されます。

以下に受賞者をご紹介します。

最優秀賞

荘加 克磨先生（中部国際医療センター）

腰部脊柱管狭窄症術後におけるしびれ同調経皮的電気神経刺激によるしびれ感改善が姿勢制御に与える影響について -症例報告-

奨励賞

松尾 匠馬先生（山内ホスピタル）

人工膝関節置換術後患者における術前の運動恐怖と術後歩行自立までの日数との関連について

奨励賞

小久保 晃先生（岐阜保健大学）

ICTを活用した療法士養成教育(第二報)
～アドバイザー活動におけるSAMRモデルの
「再定義」創出と課題～



写真左から河合会長、荘加先生、鳥澤準備委員長、
小林大会長、小久保先生、松尾先生

受賞者の皆様、誠におめでとうございます。皆様の今後の益々のご活躍をお祈りいたします。
なお、受賞された皆様の発表は、論文として岐阜県理学療法士会学術誌第30号に掲載予定です。
本会の学術向上のため、今後も皆様の活発な演題発表、学術誌への寄稿をお願い申し上げます。

学会評議員長 三川 浩太郎

日本理学療法士協会 入会50年を振り返る

訪問看護ステーション
やすらぎ

西脇 雅

この度は、第35回岐阜県理学療法学会学術大会において、日本理学療法士協会より入会50年の節目に表彰を賜り、心より感謝申し上げます。身に余る光栄に、唯々感激しております。

今日という日を迎えられましたのも、偏に多くの先輩諸先生方、職場でご指導くださった医師・看護師をはじめとする医療スタッフ、そして共に歩んできた同僚や後輩の皆様のおかげであり、心より御礼申し上げます。

私が理学療法士養成校を卒業し、岐阜県立岐阜病院（現岐阜県総合医療センター）に就職したのは1973年（昭和48年）のこと。当時、岐阜県内の理学療法士は10名にも満たず、病院には理学療法室もなく、私の所属は臨床検査科でした。リハビリ職は私一人。器材も制度も整っていない時代であり、正に草創期の現場でした。

そんな環境に飛び込む勇気を与えてくれたのは、養成校時代にある先生からいただいた「リハビリテーションはまだ世に知られていない。職場は施設の地下に追いやられていることも多いが、君たちは“縁の下の力持ち”であり続けてほしい。」という言葉でした。

理学療法室が整備されるまでは、検査業務や整形外科外来の補助、病棟での理学療法など多岐にわたる経験を重ねました。看護師へのリハビリ指導も行い、現場の連携強化にも力を注ぎながら、病棟での患者様への理学療法に励み、徐々に信頼と理解を築いていきました。

当時、岐阜県理学療法士会はまだ設立されておらず、私は愛知・岐阜・三重の三県合同の「東海士会」に入会。1975年には理事を拝命し、諸先生方との交流の中で大きな学びを得ました。

1979年、日本理学療法士協会岐阜県士会が会員15名で発足。学術部長、渉外部長、代議員などを歴任し、2010年まで何らかの形で士会運営に携わらせていただきました。中でも、1998年の法人格取得による社団法人化、そして2004年からの会長職、2010年の第45回日本理学療法学会学術大会（岐阜市開催）での大会長としての務めは、今も心に残る経験です。

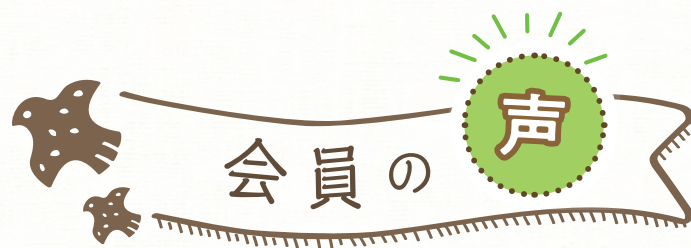
この大会には楨林準備委員長をはじめ、380名を超える士会員が運営に携わり、大会を成功へ導いてくれました。仲間の力と団結の大きさを実感した出来事でした。

現在、孫も理学療法士として勤務を始め、今大会に共に参加いたしました。私は13年前、訪問看護ステーションを立ち上げ今もなお現役として働いております。

これからも理学療法を通して、協会員としての誇りと責任を持ち、社会に貢献してまいりたいと存じます。

この度は誠にありがとうございました。





はじめての国際学会発表体験記

～World Physiotherapy Congress 2025を振り返って

岐阜大学医学部附属病院
リハビリテーション部

磯部良太

2025年5月、東京で開催されたWorld Physiotherapy Congress 2025に参加し、人生初となる学会発表——しかもいきなり国際学会での英語による口述発表——という、非常に貴重な経験をさせていただきました。この学会は、実に四半世紀ぶりの日本開催ということもあり、国内外から多くの理学療法士が集まる熱気あふれる学術集会でした。

今回は、当院から脳血管リハビリテーション、心臓リハビリテーション、運動器リハビリテーションの各分野より1名ずつ、計3名が発表いたしました。私は脳血管リハ分野の代表として、脳卒中患者に対するClinical Prediction Ruleに関する研究を発表しました。国内学会での発表経験すらなかった私にとって、これが“正真正銘初めての学会発表”ということで、準備段階から緊張と不安の連続でした。

発表に向けては、1年前から準備を開始し、特に英語力の強化には力を入れました。先輩はオンライン英会話を通じて、早朝・深夜・休日を問わず勉強を重ね、多い時には月200時間以上英語学習に費やし、英語を磨き上げるというストイックな取り組みをされていました。私は潤沢な予算があるわけではないが、デジタルネイティブ世代らしくAIアプリを駆使し、コスパとタイパを重視して学習に励みました。毎日の英語トレーニングに加え、発音練習アプリを相棒に、根気強く発音練習に取り組みました。

研究の進め方や発表準備については、海外での発表経験が豊富な先輩方に指導を仰ぎました。一人の先生は、若い頃に初めての学会発表として国際学会での英語による口述発表を経験された方で、な



かなかの猛者です。その後もいくつかの国際学会で発表を重ねてこられたとのことで、その経験に裏打ちされたアドバイスは、非常に実践的で心強いものでした。

もう一人の先生は国際学会での発表、研究法に精通されており、当院リハビリテーション部において、長く研究分野をけん引された豪胆な方です。研究を進めるうえで多大なご協力を賜りました。

一見無謀にも思える挑戦ではありますが、若いうちから世界で最前線を走る研究者たちに交じって発表を行うことで、自然と高い学術意識が身に付き、その後の研究や臨床に必要な素養や度胸が養われていくのだと実感しています。今回の挑戦も、そのような先輩の背中を見ていたからこそ、思い切って踏み出すことができたのだと思います。

予演会を何度も重ね、質疑応答への対応も想定して準備しました。本番ではさすがに緊張しましたが、準備の積み重ねのおかげで自信を持って発表することができました。冒頭の“つかみ”では、狙い通り(?)聴衆から大きな拍手をいただき、リラックスした気持ちで発表に臨めたのも良い思い出です。

今回の発表内容については、今後英文誌への投稿にも挑戦していく予定です。そして、今後も当院の脳血管リハ分野を牽引し、より一層発展させていけるよう、今回の経験を糧に日々研鑽を積んでまいります。



2025 岐阜こども福祉機器展

2025年6月7～8日に多治見市のセラミックパークMINOにて、14回目の岐阜こども福祉機器展を開催いたしました。

今回、前任者から担当が変わることになり、何から始めて良いか、企業様とのやりとり、会場、後援申請など初めて行うことばかりで、これほど準備が大変なのかと実感しました。

今年度より出展料を徴収して開催するということもあり、出展企業さんが減ったら参加者も減るだろう、せっかく足を運んでくださる参加者の方に満足してもらえる福祉機器展になるのかなど葛藤が募るばかりでした。ただ私の中では、歴史ある福祉機器展を止めてはいけないという責任感のみで努めてきました。

準備を進める中で他病院の先生方や準備委員、こども福祉部のスタッフの方々に助けられ福祉機器展を開催することができました。参加企業45社、参加者1575人と昨年に及びませんでしたが、その分、参加者の方々がゆっくり過ごせるようにフリースペースを設けたり、ボッチャなど体験コーナーも設けました。

参加者の方々から「準備や企画してくれたスタッフのみなさん、今日はありがとうございました。気になった福祉用具や機器を実際に試すことができ、我が子の成長も感じつつ、親もいろいろ勉強になります。また来年も開催してくれることを願っています。」「下の子の座位保持椅子を探しに行ったんですが、お兄ちゃんも飽きないくらい遊べる物などあって助かりました。椅子もたくさんあって、悩みましたが、下の子のリハビリの先生と業者さんが一緒に回って下さったお陰である程度候補が決まりました。ありがとうございました。」出展企業様から「毎年参加したい」「岐阜の理学療法士さん、作業療法士さんの方々が皆様優しく、温かくて、笑顔が明るくて。こちらも前向きになりました。とても素敵なイベントを作って下さり、ありがとうございました。」などの温かいお言葉をいただき、今後も充実した福祉機器展であるよう努力していきます。



文責：こども福祉部 栗本大資

理学療法フェア



開催日時：2025年7月12日(土)

開催場所：イオンモール各務原インター

7月12日(土)、イオンモール各務原にて理学療法フェアを開催させて頂き、10名のスタッフにて運営を行っていきましました。

当日は握力チェックやロコモティブシンドロームに関するテスト(2ステップテスト、立ち上がりテスト)、子供ロコモチェックを実施し、大人子供合わせて150人ほどの方に参加して頂きました。



多くの方に理学療法士を認知して頂いているとともに、身体機能・運動機能に関するご相談など市民の方々との交流も行えました。



今年は初めて参加するスタッフが多く、はじめは緊張などもありましたが、市民の方々とも多く携われ、円滑な運営を行っていくことができました。

岐阜県理学療法士会 岐阜支部

キッズタウンぎふ 2025 活動報告



理学療法士なりきり体験



障がい者車いす・ポッチャ体験



令和7年8月2日(土)と3日(日)の2日間、岐阜新聞社主催の子ども向けお仕事体験イベント「キッズタウンぎふ2025」に参加しました。岐阜県理学療法士会は、年長から小学6年生までの児童を対象に、さまざまな仕事を体験できる場として、毎年継続してこのイベントに参加しています。

今回のイベントでは、2つの活動を行いました。まず1つ目は、子どもたちにケーシーを着用してもらい、理学療法士の指導のもと「理学療法士なりきり体験」を実施しました。子どもたちは保護者の握力を測定したり、握力を高めるための簡単な運動を指導したりしながら、理学療法士の仕事を体験しました。実際に「お父さん、もっと強く握れるようになったね!」と声をかける子もあり、保護者からは「子どもに教えてもらうのが新鮮でした」といった感想が寄せられました。

2つ目は、障がい者スポーツ用の車いす(バスケ、テニス)の乗車体験や、パラリンピック公式種目であるポッチャの体験です。子どもだけでなく大人も一緒に楽しむ姿が多く見られ、障がい者スポーツへの関心の高さがうかがえました。

今回のイベントには総勢144名の子どもたちが参加し、「リハビリの仕事ってカッコいい」「握力が強くなる方法を友達にも教えてあげたい」「ポッチャがとても楽しかった」など多彩な感想が寄せられ、全ての予約枠が埋まり、大変盛況でした。イベントを通じて、子どもたちだけでなく、理学療法士同士の交流も深まり、顔の見える関係づくりができた貴重な時間となりました。

今後もイベントを通じて、子どもたちに理学療法士という職業への理解と興味を深めてもらえるよう、活動を続けていきます。

文責：橋添健也



令和7年度健康フェスティバル(各務原市)でブース出展しました。天気にも恵まれ、理学療法ブースには100名以上の方に来場いただき、ロコモチェックを実施しました。また、今回はスタンプラリー形式で各ブースを回っていただくこともあり、多くの方に理学療法士を知っていただく機会となりました。

文責：小林弘明

● 【重要】登録理学療法士更新のお知らせ ●

登録理学療法士の更新について、多くの会員の皆様に関わってくる内容となります。日本理学療法士協会は次回の診療報酬改正において、「登録理学療法士の資格取得者に対する加算が可能となるような仕組みの導入を目指し、要望を提出していく予定である」と報告がありました。登録理学療法士の更新要件として50ポイントが必要になります。協会・士会・ブロックが認めた研修会や日本理学療法士協会によるeラーニングなどでポイント加算が可能です。今までカリキュラムコードは一度取得すると上書きはできませんでしたが、2025年9月からポイントが高い方に上書きができるようになります。

登録理学療法士制度が始まってから初めての更新が、来年12月(2026年12月)までのポイント習得が必要になります。今後、登録理学療法士が法人や施設にとって必要になってくると考えられますので、まだポイントが足りていない会員は早めのポイント習得をお願い致します。

学術局：岩島隆

全3回で“研究方法”に関するセミナーを企画します！

第1回

2025年9月20日～21日（※8/1～申込可）

セミナー番号：144518

「臨床の“なぜ？”から始める研究入門セミナー」

カリキュラムコード：45 エビデンス(根拠)に基づく理学療法

講師：井上優(吉備国際大学)、尾藤貴宣(岐阜大学医学部附属病院)、北野貴之(浜松医療センター)

- ▷ 臨床で感じた疑問(CQ)を研究へとつなげるための基本を2日間で学びます。
研究デザインや統計の基礎、先行研究の読み方、テーマ設定までを実践的に整理します。

参加費：岐阜県会員1,000円/他県会員2,000円/非会員10,000円

※定員30名 先着順(@オンライン)

第2回

2025年10月18日～19日（※8/1～申込可）

セミナー番号：144519

「研究法&統計セミナー ～研究デザインから統計処理まで～」

カリキュラムコード：47 統計学

講師：澤村彰吾(平成医療短期大学)

- ▷ 研究デザインから統計処理まで幅広く学びます。
データ処理演習では統計ソフトEZRを用いて基本的な単変量解析から多変量解析まで実践します。

参加費：岐阜県会員1,000円/他県会員2,000円/非会員10,000円

※定員30名 先着順(@オンライン)

第3回

2026年1月17日（※8/1～申込可）

セミナー番号：144520

「シングルケースデザイン、症例報告の実践方法」

カリキュラムコード：48 研究法

講師：安藤貴洋(岐阜大学医学部附属病院)、河島旭(岐阜県立多治見病院)

- ▷ シングルケースデザインの基礎や解析方法、症例報告の実践方法について学びます。

参加費：岐阜県会員500円/他県会員1,000円/非会員5,000円

※定員30名 先着順(@オンライン)

※演習やグループワークを多く取り入れたハンズオンセミナーです

研究初学者から経験者まで幅広く学べる内容です！

研究を始めてみたい、最新の知見を知りたいという方は是非ご参加ください！

会員：協会HP「マイページ」からセミナー毎にお申し込みください

非会員：下記【問い合わせ先】のメールアドレス宛にお申し込み下さい

【問い合わせ先】教育部：澤村彰吾 E-mail：gifu.pt.kyouikubu1@gmail.com

2025年度 公益法人岐阜県理学療法士役員等 名簿

部署・役職名	氏 名	勤 務 先
会 長	河合 克尚	平成医療短期大学
副会長	久保田将成	岩砂病院・ 岩砂マタニティ
	三川浩太郎	中部学院大学
理 事	河合 克尚	平成医療短期大学
	久保田将成	岩砂病院・ 岩砂マタニティ
	三川浩太郎	中部学院大学
	吉井 秀仁	山内ホスピタル 介護老人保健施設
	小野 晶代	岐阜清流病院
	岩島 隆	岐阜保健大学
	伊藤 康行	医療法人社団橘会 新生病院
	村木 佑麻	山内ホスピタル
	有田志保美	多治見市民病院
	笠野由布子	中部学院大学
	富田 純也	近石病院
	伊藤 卓也	三重県理学療法士会
事務局	事務局長	吉井 秀仁 山内ホスピタル 介護老人保健施設
	事務副局長	村木 佑麻 山内ホスピタル
	財務部長	鳥澤幸太郎 山内ホスピタル
	財務副部長	大場かおり 平成医療短期大学
	事務局監事	
学術局	学術局長	岩島 隆 岐阜保健大学
	学術副局長	笠野由布子 中部学院大学
	研修部長	笠野由布子 中部学院大学
	教育部長	澤村 彰吾 平成医療短期大学
	理学療法士 講習会部長	児島 良典 羽島市民病院
	生涯学習部長	渡邊 翼 岐阜大学医学部 附属病院
	学術誌出版部長	山田 智稀 山内ホスピタル
	学会運営部長	菅沼 惇一 中部学院大学
	2025年度大会長	小林 弘明 岐阜県総合医療センター
	2026年度大会長	松岡 伸幸 中部国際医療センター
社会局	東海北陸学会 運営部	
	社会局長	久保田将成 岩砂病院・ 岩砂マタニティ
	社会副局長	伊藤 康行 医療法人社団橘会 新生病院
	こども福祉部長	栗本 大資 岐阜県総合医療センター
	共催事業部長	伊藤 康行 医療法人社団橘会 新生病院
	広報部長	矢代 真也 岩砂病院・ 岩砂マタニティ
	IT部長	寺倉 篤司 西美濃厚生病院
	厚生部長	名和 敏晃 介護老人保健施設 喜の里

部署・役職名	氏 名	勤 務 先
社会局	調査部長	小島川彰浩 東濃厚生病院
	災害対策部長	辻 量平 大垣徳洲会病院
職能局	地域包括ケアシ ステム推進部長	鵜飼 浩史 ひなた訪問看護 ステーション
	職能局長	富田 純也 近石病院
	職能副局長	今井 優利 寺田ガーデン
	診療報酬対策 部長	浅野浩一郎 岐阜清流病院
	障がい福祉・介護 保険対策部長	馬場 隆幸 訪問看護ステーション ほのぼ
	人材育成 サポート部長	今津統紀子 平野総合病院
	メディカル サポート部長	堀 丈裕 つちや整形外科
	地域職域連携 推進部長	若山 帝祈 KINMAQ整体院 岐阜南院
	産業理学療法部	今井 優利 寺田ガーデン
	学校保健・特別 支援理学療法部	岡田 大治 太田メディカル クリニック
支部局	支部局長	小野 晶代 岐阜清流病院
	支部副局長	小林 弘明 岐阜県総合医療センター
	岐阜支部長	武藤 智輝 岐阜市民病院
	中濃支部長	羽田野浩太 県北西部地域医療センター 国保白鳥病院
	東濃支部長	堀 宏樹 介護老人保健施設ひざし
	西濃支部長	戸部 一隆 大垣市民病院
	飛騨支部長	酒井 章弘 下呂温泉病院
常 設 委員会	選挙管理委員長	岡山 好男 市立恵那病院
	研究開発部長	留田 隆志 中濃厚生病院
	表彰委員長	熊崎 康将 岐阜県総合医療センター
	規約審議委員長	熊崎 康将 岐阜県総合医療センター
	倫理委員長	舟木 一夫 羽島市民病院
	政策検討委員会	伊藤 康行 医療法人社団橘会 新生病院
	常設委員会監事	舟木 一夫 羽島市民病院
代議員		和田 範文 西濃厚生病院
		原 司 特別養護老人ホーム シクラメン
		久保田将成 岩砂病院・ 岩砂マタニティ
		伊藤 康行 医療法人社団橘会 新生病院
監 事		西川正一郎 タック株式会社
		田島 嘉人 平成医療短期大学
相談役	外部監事	棚橋 一憲 棚橋一憲税理士事務所
事務所		村雲 憲 東可児病院
		伊藤 友紀 公)岐阜県 理学療法士会事務所

令和7年度 賛助会員

会社名・施設名	電話番号
有限会社 加納ビジネス 〒500-8456 岐阜県岐阜市加納大黒町2-32	TEL 058-273-3007(代)
有限会社 中部義肢 〒486-0911 愛知県春日井市西高山町3丁目16-12	TEL 0568-34-7143
岐阜保健大学 〒500-8281 岐阜県岐阜市東鷺2丁目92番地	TEL 058-274-5001
東名ブレース株式会社 〒489-0979 愛知県瀬戸市坊金町271	TEL 0561-85-7355
株式会社 松本義肢製作所 〒485-0805 愛知県小牧市大字林210-3	TEL 0568-47-1701
学校法人誠広学園 平成医療短期大学 〒501-1131 岐阜県岐阜市黒野180	TEL 058-234-3324
中部学院大学 〒501-3993 岐阜県関市桐ヶ丘2丁目1番地	TEL 0575-24-2211
株式会社 ケア 〒502-0848 岐阜県岐阜市早田本町1丁目9番地	TEL 058-233-7981
株式会社 Lee製作室 〒910-0374 福井県坂井市丸岡町北横地40-9	TEL 0776-50-1105
有限会社 であい工房 〒738-0034 広島県廿日市市宮内3300	TEL 0829-39-0041
昭和貿易株式会社 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目18番27号	TEL 06-6441-5612
株式会社 コーヤシステムデザイン 〒194-0212 東京都町田市小山町142-1	TEL 042-798-4644
株式会社 K-support岐阜 〒503-1277 養老郡養老町有尾20番地4	TEL 0584-47-9507

✿✿✿✿✿✿✿✿✿ 2025.8.25 ✿✿✿✿✿✿✿✿✿

発行人：公益社団法人 岐阜県理学療法士会 会長／河合 克尚

事務局：〒500-8384 岐阜市藪田南1丁目11番12号 岐阜水産会館 4B-4号室
TEL・FAX(058)277-6166

編集：矢代真也 印刷所：ヨツハシ株式会社